

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 28 年 2 月 19 日

1. 渡航者

氏名	藤井俊之	採択年度	平成 25 年度
部局	人文科学研究所	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	アドルノ哲学におけるドイツ観念論のアクチュアリティ		
海外渡航期間	平成 26 年 3 月 20 日～平成 27 年 3 月 31 日		

2. 渡航に関する情報

渡航先	国名：ドイツ 大学等研究機関名：ミュンヘン大学 研究室名等：哲学研究室 受入研究者名：Thomas Buchheim 教授
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：日本 目的：京都大学に提出した博士論文公聴会への出席 期間：平成 27 年 1 月 15 日～1 月 28 日

3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

<p>国際共著論文の執筆</p> <p>(論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>なし</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>本派遣によって実現したミュンヘン大学での研究によって、当地の哲学研究者との親交を深めることができた。そこで実現したネットワークをもとに、まずは当初の研究課題であった「アドルノ哲学におけるドイツ観念論のアクチュアリティ」についての研究プログラムを始動させ、次にその発展形態となる「現代思想におけるドイツ観念論の系譜」についての研究プログラムを実現させるべく協議が進められている。これら二点に的を絞った共同研究の実施につて、現在、準備段階にあるため具体的時期は確定していないが、今後の外部資金獲得の実現を目指したい。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化</p> <p>(参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>ミュンヘン大学の哲学研研究室での滞在期間中には、Siemensstiftungへの参加を許されたが、当学術会議には世界の人文学研究の様々な権威あるいは最先端にいる研究者が集い、活発な議論が交わされていた。当地で知り合うことのできた多くの研究者とは、しばしば孤立しがちな哲学あるいは文学研究の現状について、ともに反省を深めるとともに、今後の共同研究の継続を目指すべく連絡をとりあっている。また、受け入れ教員であるThomas Buchheim氏との連携のもとに、今後もドイツ観念論から20世紀の現代思想へといたる道筋の解明を目指すとともに、哲学研究のアクチュアリティの試金石となるような新たな問いの確立を図りたい。</p>

<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>本事業によって実現したミュンヘン大学での研究期間中は、当大学の哲学研究室について知る機会を得たが、そこでは卒業生が集まって議論する Absolventenkolloquium が毎週のように開催されていた。そこでの自由な意見の交換と、院生からポスドクにいたるまでの学生への入念な指導によって学生たちは現在の研究状況から孤立することなく、継続的に研究を続けていくことが可能となっている。こうした活動は、日本の大学院の現状を省みるに極めて有用な制度であり、また多様な知の総合を本務とする人文学研究にとって、為されるべき共同研究の萌芽を育むものであると考えられる。</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>なし</p>